

農村RMO 事業の取組



鹿児島県始良市

北山校区コミュニティ協議会

令和6年11月29日

校区概要



(場所)

鹿児島県中西部の姶良市最北部
標高250m山間地

(データ)

世帯数184戸人口283人

(農地・作物)

田127h畑28h 稲作が主な作物

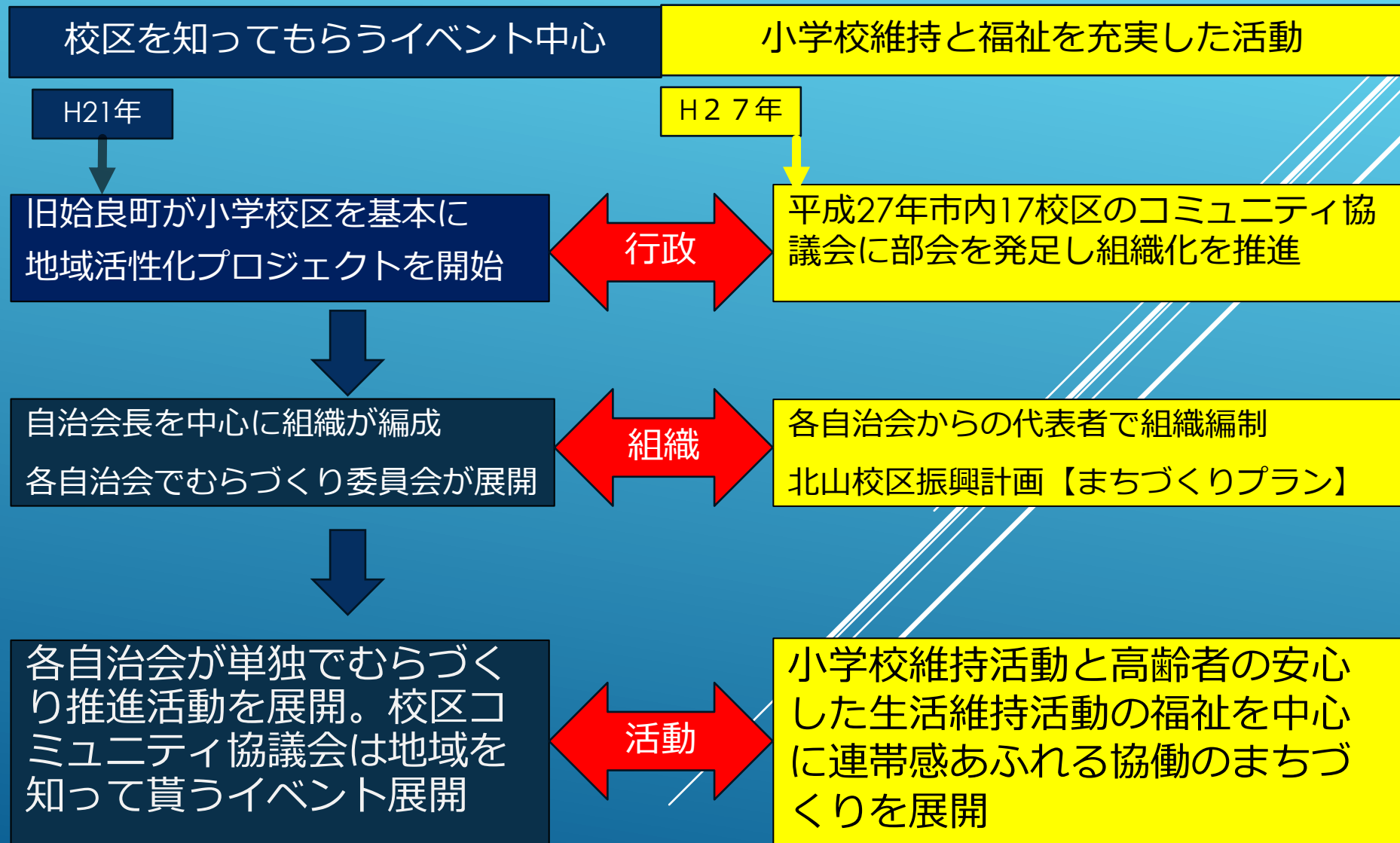
(小学校)

特認校制度を活用した小規模校

(施設)

天体観測地、郷土工芸を継承する伝承館、県民の森等が設置

コミュニティ協議会の成り立ち



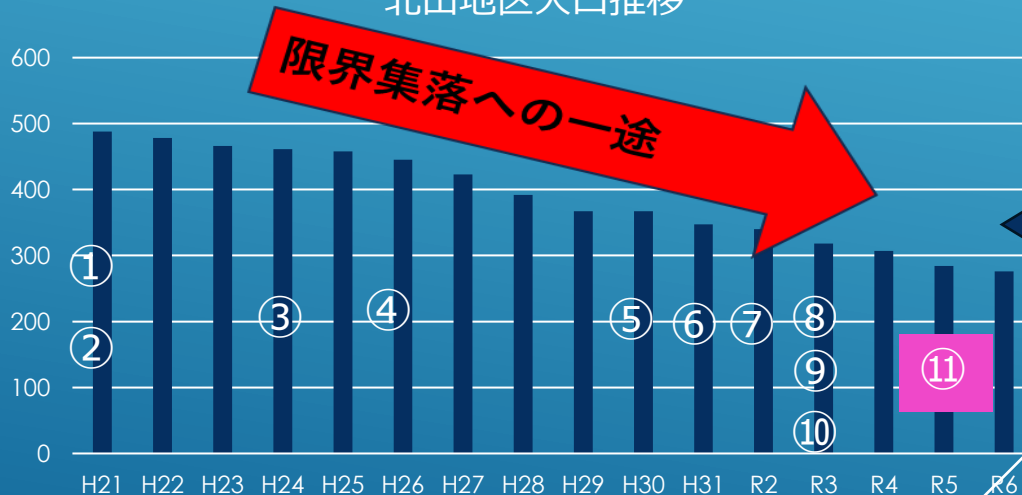
RMO事業立ち上げについて

RMO事業立ち上げの背景

- ・平成21年度以降、地域活性化を図るべくその都度独自の活性化仕組みづくりに取り組んできた。
- ・然しながら、人口減少に歯止めがかからず限界集落への一途をたどる状況となっている。

高齢化率
71%

北山地区人口推移



- ①H21年校区コミュニティ発足
- ②北山茶屋開始
- ③校区スポーツ大会開始
- ④校区夏祭り実施
- ⑤校区桜祭り開始
- ⑥校区竹水鉄砲実施
- ⑦冬の祭典実施
- ⑧小学校田植え稲刈り体験学習
- ⑨蕎麦打ち体験実施
- ⑩独居老人宅訪問開始
- ⑪農村RMO活動展開

イベントだけでは人は
住んでくれない

地元の農業を生かした活動
人が住みたいと感じる地域

RMO事業立ち上げについて

取り組みを開始するにあたって

- ・ 校区民への説明会開催。
自治会長、民生委員、コミュニティ役員及び民間企業退職者等。
- ・ 市役所職員を呼び詳細の疑問点を説明頂き、校区民全員の賛同はえられなかったが、一部5～6人がやってみようと言う事でやることになった。
- ・ 住民からは、今までも色々な取り組みをやってきた（中山間交付制度、受託組合）が問題が多く何も成功していないが又同じではないかとの不安ばかり。
- ・ 全住民を巻き込むのは後回しにして、先ずはやってみようという同志のみで始める事に、不安はあるもののRMOについての勉強会から始めた。

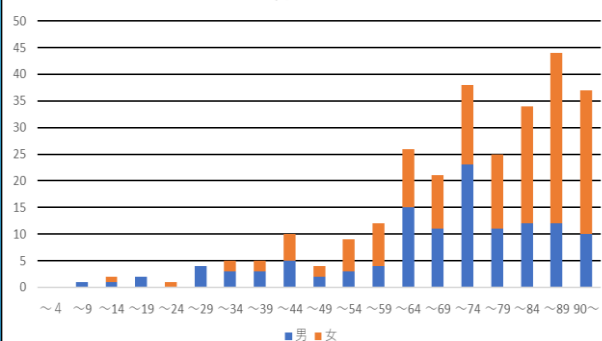


将来ビジョンの作成

将来ビジョンの作成

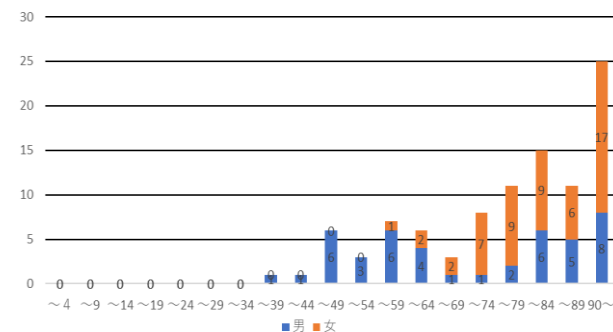
- ・ 持続可能な地域社会総合研究所のコンサルタントを活用し、校区民に現状と10年後20年後について分析頂く。
地域人口推移、農業就労者推移シミュレーション、小・中学校人口予測を実施。
- ・ 地域住民に対して、分析結果に関する説明会を行い、情報を共有した。

2023年人口ピラミッド



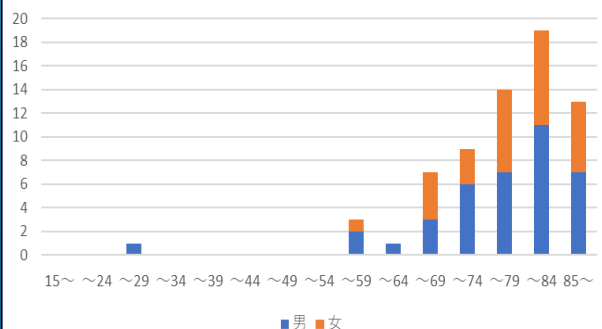
現在人口280名が
20年後は97名

2043年人口ピラミッド

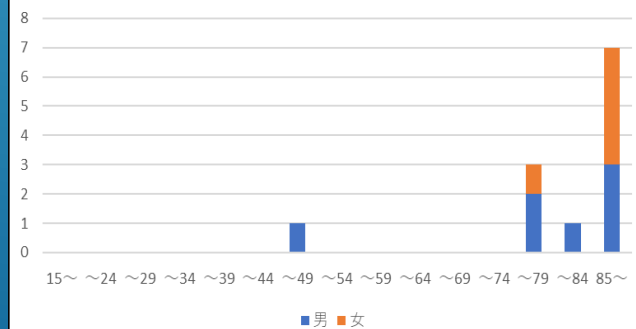


現在農業就農者67
名が20年後は12名

2020年農業就業者数



2040年農業就業者数



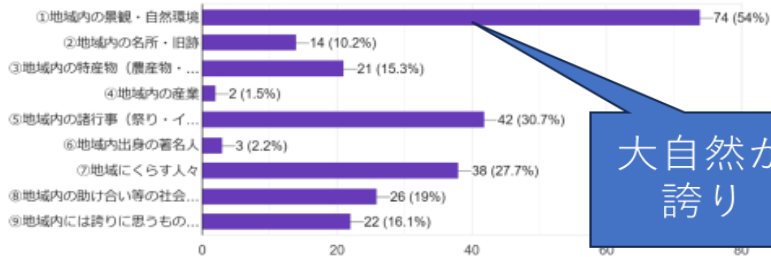
将来ビジョンの作成

将来ビジョンの作成

- ・地域住民一人一人へのアンケート実施。（162/253セットの回答 64%回収率）

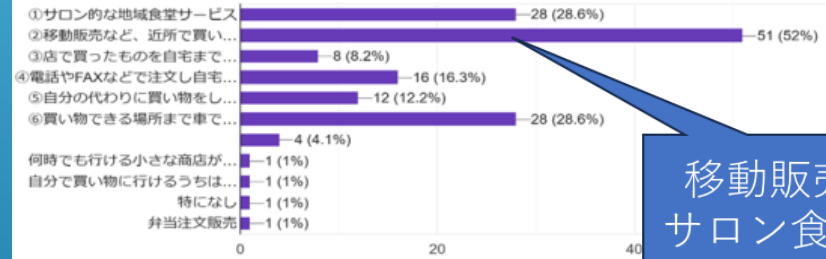
アンケート結果

137 件の回答



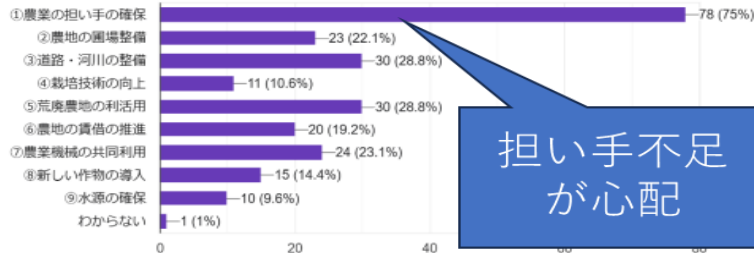
大自然が
誇り

98 件の回答



移動販売
サロン食堂

104 件の回答



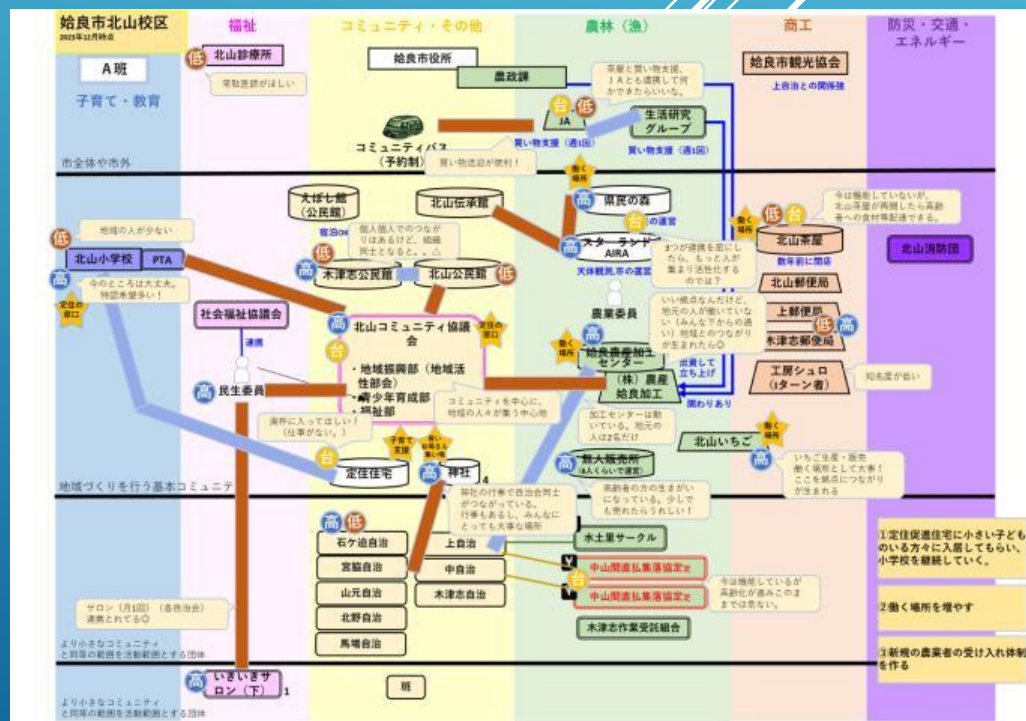
担い手不足
が心配

【アンケート結果から】
地域住民の方々が元気な内に
10年後20年後の状況を想像しながら
今出来る事を出来る人達が取り組ん
でいこうと再認識した。

将来ビジョンの作成

合意形成の手法

- ・持続可能な地域社会総合研究所によるワークショップを2回実施。
参加者：自治会長、民生委員、コミュニティ役員及び地区外人員（地元出身者）
- ・地域の強み・弱みを出し合い、今後取組むべき事項を提案。
1 グループ5～6人で地域に関連している機関の組織図に、天気図を当てはめながら議論する事で、強みや弱みが分析でき、特に台風（新風を起こす場所）には興味が湧いた。



将来ビジョンの作成

地域独自の工夫

- ・ ビジョン作成後地域住民への説明は、各自治会で開催される総会の日に実施。総会は従来全員出席するので、多くの住民に説明できた。
- ・ 住民よりコミュニティが何をやろうとしているのか知りたいという声が出てきた。



ビジョン達成に向けた取組内容

全体ビジョンとして

- ・リーダー的人材の育成が最重要。
- ・農村RMO活動地域への研修参加及び視察。
ブランド米展開地域の視察、リーダ育成研修会参加。



農地保全では

- ・重労働作業から軽作業への脱却で、ヒサカキの実証栽培を実施。
荒廃農地や遊休農地に高齢者でも継続できる作業の確立。
- ・最終的な目標である農業法人設立に向けたメンバーの収集と説明会実施。



ビジョン達成に向けた取組内容

地域資源・生活支援

- ・ 女性メンバーによるランチ会の検討
女性7名で地域と連携した加工グループの視察（10月6日自前のランチ会実施）
- ・ 鹿児島大学との薬膳食開催の検討
（8月1回目はコロナ拡大で延期。再度来年1月に実施予定）



初のランチ会
弁当が完成

鹿児島県の農村RMO形成 伴走支援について

鹿児島県むらづくりプランナー
寺脇 孝子

自己紹介

○鹿児島県鹿児島市桜島出身

○1982年4月～2022年3月

鹿児島県職員。普及指導員として、主に生活改良、担い手育成、地域振興（集落営農・地産地消）を担当

○2022年8月から現在まで

公益社団法人 鹿児島県農業・農村振興協会でもらづくりプランナーとして活動中。モデル地区での相談対応や話し合い活動の支援、関係機関との連携調整、新規モデル地区の掘り起こし等が主な業務

支援対象地区

(R4～)天城町地域づくり協議会

(R5～)始良市北山校区コミュニティ協議会

農業者組織

集落協定
集落営農
農業法人 等



地域の組織

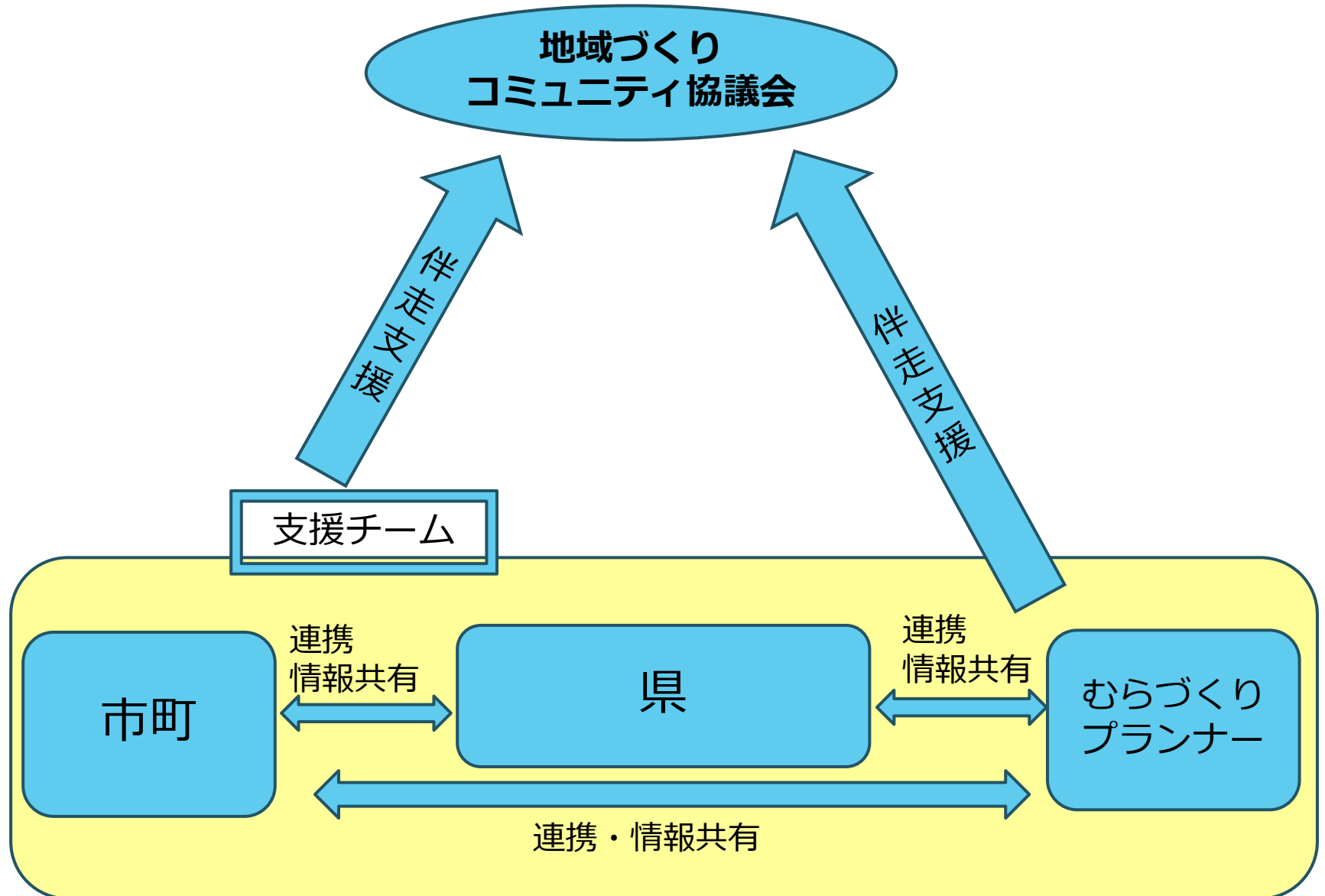
自治会
婦人会
建設業会
消防団 等

話し合い活動（ワークショップ）



むらづくりプランナーはここを主に支援！！

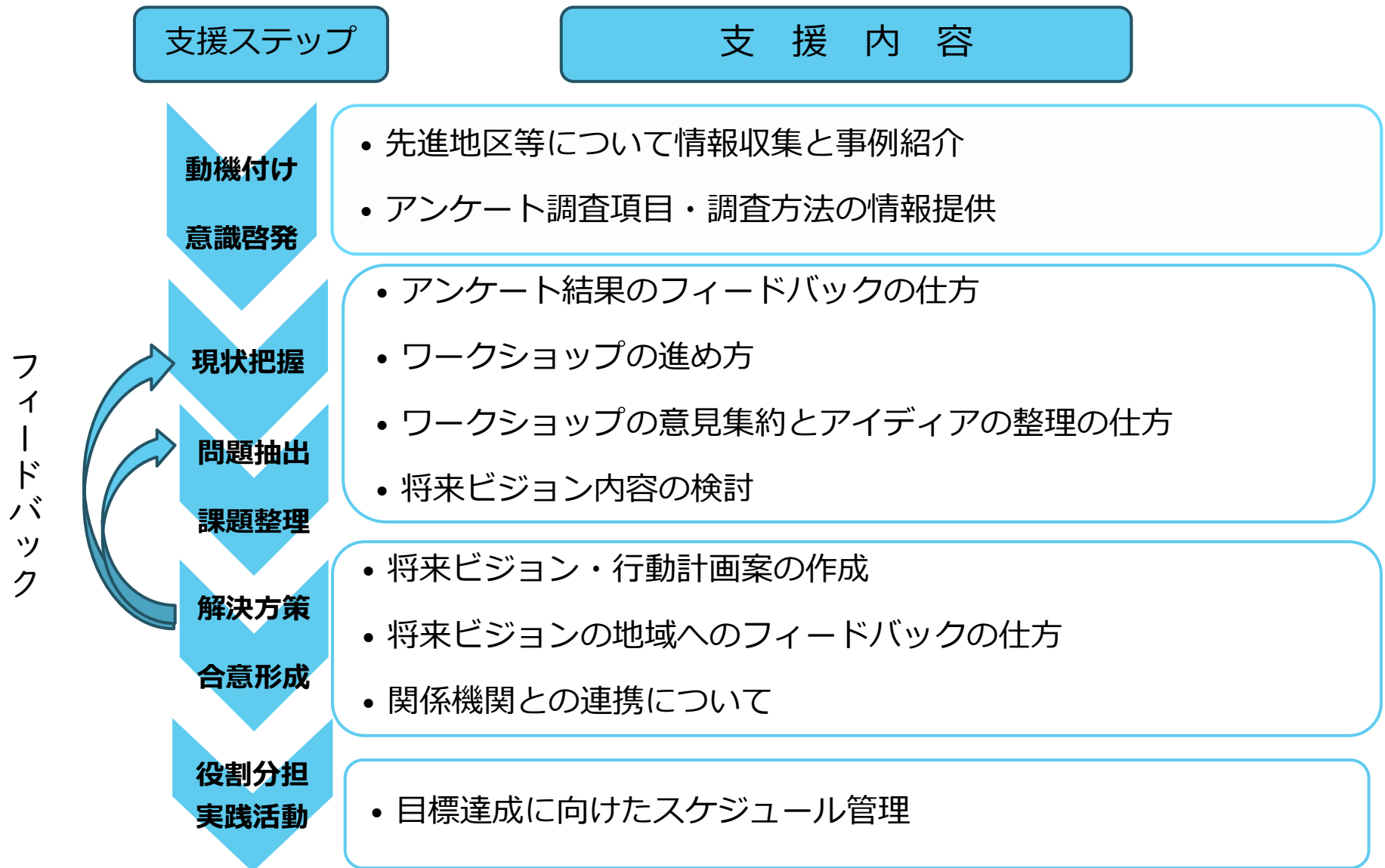
対象地区の支援体制



伴走支援の3か年のイメージ

	1年目	2年目	3年目
	信頼関係構築 課題整理	計画の実践と見直し	振り返りと自走化
モデル地区	支援地区の現況把握 話し合いの方向づけ ビジョンの策定支援	地区リーダーへのアドバイス ビジョンの見直し・点検 実証活動への支援	組織の持続・自立化にむけた取組支援
関係機関	支援地区の進捗状況把握と地区情報の共有 連携体制の構築		

将来ビジョン策定までの伴走支援のフロー図



【現状把握・課題の共有についての支援】



アンケート内容の検討

- ・ 他地域の事例紹介
- ・ 内容は
- ・ 既存調査との重複は
- ・ 高齢者に優しい文字の大きさは
- ・ 調査対象、時期は
- ・ 調査方法、役割分担は



関係者による合意形成手法の習得

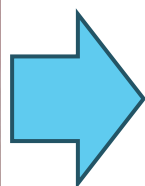
- ・ ワークショップの進め方は
- ・ ファシリテーターの役割は
- ・ 地域ビジョンづくりの進め方は
- ・ ワークショップをやってみよう

【合意形成手法についての支援】

1 ワークショップ



2 課題整理



ワークショップの意見集約

課題ごとに優先順位、役割分担を検討

【ビジョン作成支援】

ビジョン案について事前検討



- ・関係者で意見を出し合いブラッシュアップ
- ・重複する表現をなくし、わかりやすく
- ・グラフは大きく見やすく
- ・写真やイラストを多く

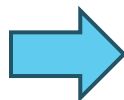
【ビジョンの実践支援】

女性が活躍できる場を作る
地域交流の場を作る



女性部の立上げ
月1回のランチ会の開催

先進地研修の提案



地域の女性へ呼びかけ

楽しんで
活動する

できること
から始める

私たちも
できるかも

無理せずできること
から始めればいい

ランチ会の開催



【計画の実践と見直し支援】

- ・ 計画の進捗状況の把握と関係機関との情報共有
- ・ 試行錯誤により、手順や到達目標の見直し
- ・ 実践に必要な先進事例等の情報提供や関係機関との連絡調整

【自走化に向けた話し合い支援】

- ・ 自走するために何が必要か
- ・ どんな組織にするか
- ・ 事業内容は
- ・ 必要な人材は
- ・ タイムスケジュール

伴走支援にあたって心がけていること

- ・ 地区リーダーや関係者と密に接触し、相談しやすい雰囲気づくりに努める。
- ・ 現地で得た情報については、必ず関係者と情報共有する。
- ・ 事業の進捗状況について支援チームで定期的に協議する
- ・ 主体は地域住民であることを念頭に、決定は地域に任せる。

伴走支援する上での課題

- ・ モデル地区や関係市町の主体性を妨げない伴走支援の在り方。
- ・ 協議会事務局に事業推進や事務作業が集中し、役員への負担が大きい。
- ・ 3か年で自走できる組織作りは難しく、どこまで伴走すべきか明確でない。